

## 幸

運にも、拙宅は堀部安嗣氏の第二作目に当たっている。骨組み

以外、ほぼ全面的に改装をお願いした。その設計案がまとまる直前、私は堀部氏に誘われて新宿区中井にある林芙美子邸を見学しに行った。施主がどのような住まいを求めているのかこの昭和の名建築に対する感想から読み取りたい、とのことだった。私は「編集者控えの間」なる小部屋の畳に寝そべり、「庇に遮られる日光が、眩しくも暗くもなくって午睡に良いですね」と言った。その言葉に対する回答が、完成した我が家の窓に表れている。隣家には美しい和風の庭があり、窓は額縁のようにしてその庭を切り取って、和室から眺望できるよう設えられていた。

住まいは雨露しのぐただの箱ではな



## 柔らかな窓辺

器とcafe「ひねもすのたり」

東京都杉並区阿佐谷北1-3-6-2F

電話 03-3330-8807

営業 11:30～19:00 / 木日休

い。外部には隣家や高木、内部には白壁や道具が見え、双方に視線を投げかける中心に自分がある。そうした居場所を淡い光で包み込んでくれるのが堀部建築の特質だ、と私は感じている。妻と経営している「ひねもすのたり」は赤木明登の漆器他、当代人気作家の「罌」を扱うカフェで、築四十年の元アパートのリフォームを堀部氏に依頼した。天井は銀色に着色され、元々付設されていた天窓は柔らかな光を取り入れて、白を基調とした空間に陰影が加わった。窓外を電線が這うのが不満だったが、「5×緑」が開発した里山移植金網籠を窓辺に並べると、蔓が繁って見えなくなった。午後のひととき、穏やかな時間をお過ごしいただきたい。

「松原隆一郎／社会経済学専攻」

すむ